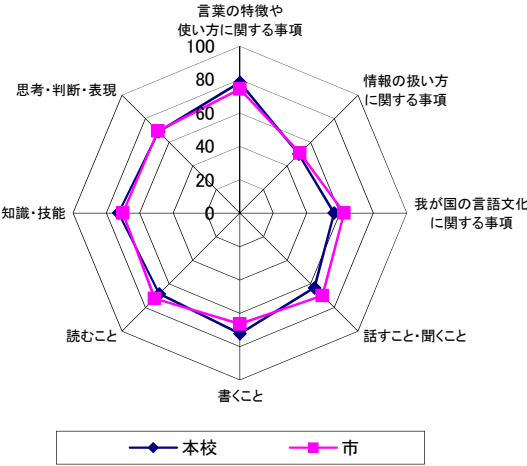


宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.3	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	50.0	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	56.4	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	63.2	69.9	69.7
	書くこと	72.2	66.4	64.6
	読むこと	68.4	72.3	71.0
観点別	知識・技能	72.7	70.1	70.0
	思考・判断・表現	68.9	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

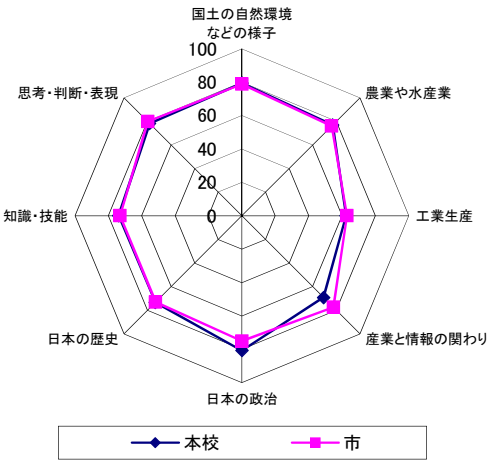
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・校内正答率は71.7%で、市より4ポイント高い。 ○漢字を読む、書く問題の校内正答率は6問中4問で市の平均を大きく上回っている。 ○言葉の学習では、三字の熟語の成り立ちや文章の中で文脈に沿った漢字を適切に使う問題の正答率は市の平均を10ポイント以上上回っている。基礎基本はよく身に付いていることがうかがえる。 ○文章を書くの「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の校内正答率は87.2%で市より18ポイント低い。 ●言葉の学習の「敬語について理解し正しく使っている」の校内正答率は35.9%、「謙譲語について理解し、正しく使っている」の校内正答率は82.1%と、それぞれ市より10.3ポイント、4.1ポイント低い。	・漢字を読む、書くの学習については、今後も漢字ドリル等で繰り返し学習するよう指導し、小テストや漢字検定を実施することで定着を図る。 ・敬語の使い方については、プリント等を活用し日常的に繰り返し学習する機会を設け、学習したことを活用する力を身に付けさせていく。
情報の扱い方に関する事項	・校内正答率は50%で、市より0.9ポイント低い。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」の校内正答率は74.4%で市より0.8ポイント低い。 ●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書いている」の校内正答率は、25.6%で、市より0.9ポイント低い。	・朝の学習や家庭学習等を利用し、情報を読み取ったり、読み取った情報から要点をまとめたりする学習を繰り返し行っていく。また、どちらの問題も無回答率が高かったことから、日常的に指導を行っていく必要がある。 ・目的に合わせて情報を収集し、資料を関連付けながら読み取る活動を行ったり、読み取ったことをもとに考えを深めたりする活動を行ったりすることで、思考力を高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	・校内正答率は56.4%で、市より6ポイント低い。 ●「漢字の由来について理解している」の校内正答率は56.4%で、市より6ポイント低い。	・漢字の学習では、新出漢字を読んだり書いたりする学習に留まらず、成り立ちや漢字のつくり、意味についての理解を深めていけるよう、漢字辞典や国語辞典を使って指導していく。
話すこと・聞くこと	・校内正答率は63.2ポイントで、市より6.7ポイント低い。 ●「話し手の目的に応じて、話の内容を捉えている」の校内正答率は92.3ポイントで、市より5.8ポイント低い。 ●「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合っている」の校内正答率は15.4ポイントで、市より10ポイント低い。	・話の主旨を捉え、大事なことを考えながら聞くことを日常的に指導していく。 ・大事なことは端的にメモをすることや分かりやすいメモの取り方の工夫も改めて指導していく。 ・話し合いの仕方や話し方、正しい参加の仕方を指導することで、主体的に話し合いができるようにする。
書くこと	・校内正答率は72.2ポイントで、市より66.4ポイント高い。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の校内正答率は87.2ポイントで、市より18ポイント高い。 ○「事実を基に自分の意見を明確に書いている」の校内正答率は71.8ポイントで、市より10.3ポイント高い。 ●「表やグラフを用いて、自分の考え伝えるように書き表し方を工夫している」の校内正答率は87.2ポイントで、市より3.6ポイント低い。	・書き手が伝えたいことを正しく読み取ったり、伝えたいことと資料を適切に結び付けたりする力を身に付けられるよう、国語の時間に限らず表やグラフを正確に読み取る学習を進めていく。
読むこと	・校内正答率は68.4ポイントで、市より3.9ポイント低い。 ●「文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている」の校内正答率は56.4ポイントで、市より10.1ポイント低い。 ●「文章全体の構成を捉えている」の校内正答率は41ポイントで、市より12.2ポイント低い。	・物語文の学習では、登場人物の心情や情景描写を読み取るだけでなく、それらに対する感想や意見を交流する機会を設け自分の考えと比較したり自分の考えを広げたりできるよう指導していく。 ・説明文の学習では、語句や説明的な文章の表現を取り上げたり、接続詞やその役割、段落ごとの要点や段落の構成を学ばせたりすることで、内容を的確に読み取る力を身に付けさせていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	79.5	78.9	75.4
	農業や水産業	76.9	76.1	71.2
	工業生産	62.4	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	69.2	77.6	59.7
	日本の政治	80.8	75.0	79.3
	日本の歴史	73.4	73.1	72.8
観点別	知識・技能	73.9	73.0	71.4
	思考・判断・表現	78.2	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

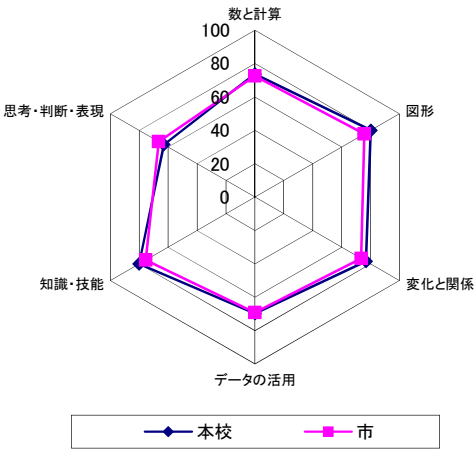
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・校内正答率は79.5%で、市より0.6ポイント高い。 ○中国の国旗と位置について答える問題の正答率は97.4%で、市より7.2ポイント高い。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取って答える問題の正答率は41.0%で、市より8.7ポイント低い。	・地図帳や地球儀を活用し、日本の主な地形の名称や位置について理解させたり、ワークシートを活用して繰り返し国旗の学習をすること知識の定着を図っていく。
農業や水産業	・校内正答率は76.9%で、市より0.8ポイント高い。 ○日本の農業人口をめぐる課題について資料から読み取る問題の正答率は87.2%で、市より3.9ポイント低い。 ○複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用ついてに捉え、判断する問題の正答率は84.6%で、市より1.4ポイント高く、全国より7.3ポイント高い。	・資料を読み取ったり資料を基に考察したりする力を育てるために、資料から読み取れることを話し合ったり、資料を基に自分の考えを説明したり、まとめたりする活動を積極的に取り入れる。
工業生産	・校内正答率は62.4%で、市より0.5ポイント低い。 ○大工場と中小工場の理解をもとに、資料から読み取って答える問題の正答率は56.4%で、市より3.6ポイント高い。 ●日本の鉱産資源の輸入について資料から読み取って答える問題の正答率は61.5%で、市より3.6ポイント低い。	・資料から情報を読み取って、整理し、必要な事柄を抜き出す活動や資料から読み取れることを話し合ったり説明したりする活動を取り入れる。 ・大工場と中小工場の違いなど、学習したことを振り返る場を設ける。
産業と情報の関わり	・校内正答率は、市より8.4ポイント低い。 ●インターネットを利用するときの注意点について理解しているか答える問題の正答率は、市より4.3ポイント低い。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題の正答率は、市より12.4ポイント低い。	・身近なマスメディアの特徴や情報ネットワークの利便性について、日常的に機会を捉えて具体的な場面で説明するとともに、情報化社会における正しい情報の受け取り方等について今後も指導していく。 ・資料を基に自分の考えを説明したり、まとめたりする活動を取り入れる。
日本の政治	・校内正答率は80.8%で、市より5.8ポイント高い。 ○日本国憲法の三原則について解答する問題の回答率は84.6%で、市より15.2ポイント高い。 ○国会の仕組みについて解答する問題の回答率は87.2%で、市より16.0ポイント高い。 ●裁判の仕組みについて、資料から読み取って答える問題の正答率は71.8%で、市の平均より7.8ポイント低い。	・裁判所の役割やしきみについての情報を読み取り、必要な事柄を抜き出す活動や、読み取ったことを話し合う活動を取り入れる。
日本の歴史	・校内正答率は73.4%で、市より0.3ポイント高い。 ○室町時代の文化について答える問題の正答率は79.5%、市より、5.1ポイント高い。 ●飛鳥時代の出来事について答える問題の正答率は53.8%で、市の平均より5.0ポイント低い。 ●武家諸法度について答える問題の正答率は48.7%で、市の平均より5.7ポイント低い。	・それぞれの時代の特徴や時代のつながりを押さえられるよう、時代を代表する歴史事象や人物の業績について調べたことを、年表や図表、新聞などにまとめる活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.8	72.6	73.1
	図形	80.1	75.7	74.7
	変化と関係	76.9	73.6	66.1
	データの活用	69.7	69.2	70.7
観点別	知識・技能	80.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	63.0	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

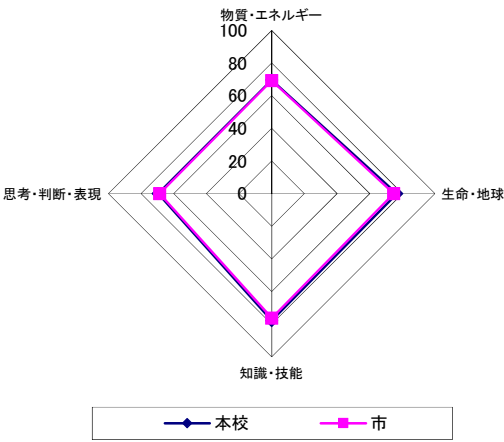
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は73.8%で、市よりも1.2ポイント高い。 ○分数のかけ算やわり算の基本的な計算問題では、正答率が市より約8～9ポイントほど高く、基礎的な計算の力が身に付いている。 ●乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表す問題では、市より約8ポイント低い。 ●整数×小数と整数×分数の計算に共通するかけ算の性質を判断する問題では、市より約13ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算の力は定着しつつある。今後も宿題や朝の学習等を活用し継続的に指導していく。 ・言葉や数、式、図などの相互の関連を理解し、それらを用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したりできる力を養うために、普段から探究的に説明し合う学習環境作りを意識的に行う。
図形	・平均正答率は、80.1%と市より4.4ポイント高い。 ○合同な三角形の作図の問題では、市より8.4ポイント高い。 ●指定された対角線を対称の軸とするときの、線対称な図形の対応する点を見つける問題では、市より5.9ポイント高いが、校内正答率は53.8ポイントと低い。	・基礎的な作図の力は定着しつつある。今後も、少人数指導の充実や、ICT機器や模型など活用を通して、指導の充実を図る。 ・問題文で聞かれていることを正確に読み取る力を付けるため、様々な出題形式の問題に取り組む場面を意識的に設ける。
変化と関係	・平均正答率は、76.9%と市より3.3ポイント高い。 ●表から面積と人数の割合を求める問題では、市より1.1ポイント高いが、校内正答率が74.4%となっている。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題では、市より7.2ポイント高いが、校内正答率が64.1%となっている。	・単位量当たりの大きさについて、何を単位量として比べるかを明らかにしながら立式できるよう、数直線や図、言葉を用いた指導の充実を図る。 ・なぜそのような式で求めることができるのか、根拠を明らかにして説明する場面を意識的に設ける。
データの活用	・平均正答率は、69.7%と市よりわずかに0.5ポイント高い。 ○ドットプロットから最頻値を読み取る問題では、市より9ポイント高い。 ●円グラフから割合を読み取り、基準値から比較量を求める問題では、市より3.6ポイント低く、校内正答率も35.9%と低い。 ●代表値を用いて、ある記録がクラスの半分より高いかどうかを説明する問題では、市より1.6ポイント低く、校内正答率も28.2%と低い。	・グラフを読み取る際には、基準量との関係を繰り返し指導し、読み取ったグラフのデータと割合の学習を結び付けて考えることができるようにする。 ・代表値の意味を正確に理解し、どの代表値を用いると適切か判断できるようにするとともに、代表値を用いて説明する場面を意識的に設けるようにする。 ・習熟度学習や少人数指導を有効に活用し、つまづきの原因を見極め、個別指導の充実を図る。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.6	69.3	65.7
	生命・地球	76.8	74.7	77.8
観点別	知識・技能	77.8	76.2	76.4
	思考・判断・表現	69.6	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・校内正答率は69.6%で市より0.3ポイント高い。 ○「ふりこの1往復する時間の求め方」の設問では、市より16.8ポイント高い。 ○「コイルの巻き数の多い電磁石が、強い磁界を生じること」の設問では、市より7.3ポイント高い。 ●「ランタンの上の穴のはたらき調べるために比較する実験を指摘する」設問では、市より14.7ポイント低い。 ●「実験を計画する」設問では、市より8.7ポイント低い。	・「物の燃え方」の学習では、実験装置の意味を十分に理解したうえで基礎的基本的な知識や技能の定着を図り、学習したことを生活場面でどのように生かすことができるか、また事象を比較することで分かることは何かをしっかりと押さえた指導を行うようにする。 ・実験をすることで何を調べ、何が分かるとよいかを考えられるようにしたうえで実験の計画を立てられるようにする。
生命・地球	・校内正答率は76.4%で市より2.1ポイント高い。 ○「だ液のはたらきを調べるときの水の温度」の設問では、市より16.8ポイント高い。 ○「生物がとり入れたり出したりする気体の流れ」の設問では、市より10.8ポイント高い。 ○「ヨウ素デンプン反応の結果から、でんぷんができた歯を指摘する」設問では、市より10.7ポイント高い。 ●「メダカが水の中の生物を食べていること」の設問では、市より6.9ポイント低い。	・「生物とかんきょう」の学習では、水中の生物同士も小さな生物を出発とした食物連鎖でつながり合っていることを、田んぼの水の様子を顕微鏡で詳しく調べたり、映像資料を見られるようにしたりして、実感を伴って理解できるようにする。 ・身に付けた知識や技能を使って思考したり判断したりできる設問を用意し、学びを生活に結び付けて活用できるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性